



新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。皆々様におかれましては、清々しい新年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて今年は2020年、愈々待望の第二回東京オリンピック・パラリンピック開催の年となりました。思い起こせば55年前、当時小学校の低学年であった自分がチャンネルの付いた真空管式の白黒テレビに噛り付き、胸をワクワクさせながら、第一回東京オリンピックの放送を観ていた記憶が鮮やかに蘇ります。

中でも、一番心に残っているのは、やはりマラソンの円谷幸吉選手の銅メダルでしょうか。代々木の国立競技場にエチオピアの裸足の英雄・アベベ選手に次ぎ、第二位で戻って来た円谷選手が、ゴール直前でヒートリー選手に抜かれてしまった光景は、実況(絶叫?)するアナウンサーの『円谷危ない! 円谷頑張れ!』の声と共に、その勝負の非情さや惜敗の辛さとも相俟って、子供心にも深く刻まれるものとなりました。それは半世紀を超えた今でもきっと変わりません。

かなり昔の事とは言え、あの頃の日本は敗戦の痛手から立ち直り、高度経済成長の波に乗り始め、夢や希望、そして自信や活力に溢れた、そんな時代背景でもあった気がします。

だからこそ、選手一人ひとりが国を背負い、国の威信をかけ、参加する世界的な祭典であり...そこにはスポーツを楽しむと言うよりは、悲壮感の方が優っていた様な気がしてなりません。その後円谷選手は確か自らその命を絶たれてしまうのですが、日本人の美德を超えた、哀しみにも似たその生真面目さに、生き様に、ご冥福を願わずにはおられませんでした。

新年早々、少しばかりしんみりとした話題になりましたが、今年もきっと沢山の選手が活躍してくれる事でしょう。そして日本を取り巻く環境や背景はあの頃とはまた変わりましたが、このオリンピックが、また日本が新たな意味で自信を取り戻し、世界に邁進して行く契機となることを強く願います。

今年も全社員一丸となり、四方(お客様・社会・社員・自社)良しの精神で、一緒懸命に精進して参ります。ご指導・ご鞭撻のほど、何とぞ宜しくお願い申し上げます。



島崎熱処理株式会社
代表取締役社長
嶋崎 利行

年末年始のメンテナンス

S-1.Bグループ



私の所属するS-1.Bグループでは年末に油槽のスラッジ掃除をしました。油槽コンベアを引き上げなければならないので大変な作業ですが、スラッジを取り除くことによりコンベアの突然の不具合を予防できます。他部署から応援をして頂き、きれいになりました。



S-1.Bグループでは、その他にメッシュベルトの交換も行いました。長く使っていると変形や亀裂などで、作業に支障がでてきてしまうので、定期的に変換します。年間計画を立ててメンテナンスをすることで、設備の故障を未然に防ぐ事にもつながります。

S-1.Aグループ



S-1.Aグループもスラッジ掃除をしました。S-1.Aグループは油槽がBグループよりも広く、2つあるので大変です。この他にも、炉のメンテナンスやペンキ塗りを行いました。

S-3グループ



S-3グループは炉内清掃、補修を行っています。浸炭炉は中が見えないので、炉内がどのような状態になっているのか中に入って確認する必要がありますが、炉内の温度が下がらないと中に入れません。その為毎回の長期休暇を使って炉内のメンテナンスを行っています。狭い炉内での作業はとても大変ですが、トラブル防止の為安全に留意しながらメンテナンスを実施しました。

〇編集後記〇

年末年始、皆さんはどの様に過ごされたのでしょうか。帰省された方もいると思います。私は千葉県生まれの千葉県育ちなので、帰省という言葉に少し憧れがあります。

子供のころの正月の記憶というと、晴れた空の下、近所の友達と田んぼや原っぱで走り回っていました。今は、その田んぼや原っぱも無くなってしまい、家がたくさん立ち並んでいます。

先日、友人と地元の旧商店街を歩いて帰る機会がありました。ここは何の店があったここは駄菓子屋だったなどと話しながら、すっかり変わってしまった事を少し寂しく思いました。

(裏面担当 須田)

